



ぎんなん便り

2013年10月

VOL. 7



イラスト wanpaug

少しずつ涼しくなり、秋の気配を感じる今日この頃です♪皆様、体調はいかがですか？

先月まではまだまだ暑い日もありましたが、台風が過ぎ去るともう秋！

そろそろインフルエンザなどの予防接種も各医療機関で始まる頃です。

各自で冬への準備をしていきましょう。

そして美味しいものを食べたり、読書をしたり、運動を楽しみながら秋を堪能いたしましょう♪

9月のぎんなん便りは、少し時期をずらして10月号となりました。今月も元気いっぱいにいきましょう！！



患者の独り言

今月も素敵な独り言が2件も寄せられました。

赤い糸で結ばれた私の人生聞いて下さい/H.U.

2007年1月13日、便に少し血が付いていたので、軽い気持ちで近くの病院で受診、その時は大腸腫瘍と診断されました。直ぐに内視鏡の予約をしました。そして10日間検査入院。

その結果思いもよらない病名が・・・「直腸癌」。エエッ！

「何で私がこんな目に合わないといけないの」、「なんで！なんで！」、「何かのまちがいや」、こんな日々が続きました。

やっと落ち着きを取り戻した頃、がんの出来た場所が肛門に近い為、人工肛門になるかもしれないということで、今度は目の前が真っ黒。真っ白というよりくらくらとめまいがしそうでした。

手術をして人工肛門造設と言うことになり、家族の希望もあり大阪市大病院に紹介状を持参してお願いすることになりました。

手術は2月26日、約8時間かかりました。

大きな手術とストーマ造設ということで不安が一杯でした。

担当の看護師さんが手術までの間ストーマの本を持って来てくださいました。「わからないことは聞いて下さい」とおっしゃいました。

本の中にはこの様な事が書いてありました。

大腸の中で直腸部分は約20cmの長さがあり、がんの出来た場所が肛門に近い場合、手術で肛門も一緒に切除する。手術後は大腸から便を出すための排出口を開け、左のお腹の外の袋に便をた



める人工肛門(ストーマ)の生活になり、自然な排便はできなくなる。

「えらいことになるのやなあ」、ここまできたら肝が据わったのか、私は「なるようになるわ」市大の先生にお任せするしかないと思いました。

手術後の痛みもまったくありませんでした。体力を付ける為長い廊下を何回も歩きました。1カ月少して退院しました。家に帰ると落ち込みが日に日に増えて「鬱」になりそうでした。

そんな時、大腸がんの講演会がぎんなんで開催されました。

始めて参加させていただきました。その時ぎんなんの事務局の木村さんから「ぎんなん」の会の入会用紙を頂きました。まだ術後3カ月なので心にゆとりはありません。「ちょっと考えます」と言って

用紙を持ち帰りました。しかし今考えてみるとその用紙を提出して良かった。

あの時木村さんが声を掛けて下さらなかつたら、私はあれで終わり。たった1枚の紙がぎんなんの皆様、さらにはボランティアグループ「はりねずみ・病院裁縫グループ」の皆様との出会いを作って下さいました。半分鬱になりかけていた私に救いの手を差し伸べて下さいました。

私は裁縫が好きです。患者会「ぎんなん」を通して「はりねずみ」という病院ボランティアの存在を知りました。今では「はりねずみ」は私の生き甲斐です。同じがんという病気を通じて、患者会の人達と共に共感し、「はりねずみ」では針をどうして笑顔がはじけます。皆様もどうぞ「はりねずみ」をお訪ねください。



頑張りました/刈谷久美子

平成6年11月、夫は肺がん(進行がん)で手術も出来ず54歳で他界しました。平成20年、今度は私が乳がん(左乳房)を大阪市大病院で告知されました。私は即手術を希望し、左乳房全摘術を担当医の高島先生から受けました。

リンパにも転移(3か所)がありましたので、術後化学療法を受けました。全身倦怠感、苦しい辛い点滴を終了して「ホット」したのも束の間、左腕が指先までパンパンに腫れ、触っても痛い。

浮腫!!じっと見つめて泣いた時もありました。担当医に紹介して頂き、リンパマッサージを開始しました。

9月より、乳腺内分泌療法(アロマシン25mg)が向こう5年間の予定で開始されました。更に担当医より骨リュウマチ科の今西先生、形成外科の元村先生を院内紹介して頂きました。

図書館で医学書を見たり、最新医療の本を購入したりして情報収集し、乳房再建を決意しました。

平成21年5月右乳房縮小術、腹直筋皮弁による左乳房再建手術を受けました。術後幸運にも左上の浮腫が改善されていました。とても嬉しかったです。左乳房「お帰りなさい」。温かくて柔らかく弾力有り。右乳房縮小「20歳?!」ルンルンですが、個人差があります。

ケロイド体質の私は、平成22年5月癒痕拘縮修正術、平成23年10月乳房下溝形成術、余剰組織切除術(局部麻酔)、平成24年6月乳輪・乳頭形成術で見事完成しました。良い縁に恵まれ感謝の日々でした。

平成22年の夏、乳腺外科の外来で辻代表との出会いにより、10月にぎんなんの会員となりました。高島先生他諸先生方の勉強会・おしゃべり会で勇気と希望を頂き、自身の乳がんを、必要に

応じてオープンにできる負けられない自分になり、感謝しております。

平成23年10月乳房再建の4回目の入院、手術を受けました。そして術後3週間目の11月9日より、台湾の台北で開催されました「RR I 乳がん患者国際会議」にぎんなんの皆さんと参加することが出来ました。

大会1日目は歓迎レセプションが開かれました。

2日目は大会開始にあたり35カ国が紹介され、ジャパーンと言われた時、辻代表と思いきり手を振りました。

会場からは万雷の拍手で、鳴りやまず、「すごい拍手でしたね」と代表に尋ねましたら、「今年は東日本大震災があったから、よく来たネ！頑張れ～のエール！なんじゃないかな」。

あの時の感動が今又蘇って来ます。



3日目は観光と、夕方からガラ・ディナーが開かれ、700名が参加しました。お国自慢は各国の民族衣装で、勿論ジャパーンは着物でした。明るく楽しく、握手、抱擁の盛大なる大交流は、まるで35カ国に行ったかのような感動と充実感を私に与えてくれました。そして私の人生の歴史の1ページとなりました。



家族の支え、医師、看護師、ぎんなんの会の皆様、沢山の方々に支えられ、当年72歳の私はとても幸せです。

今日も元気でこれからの命を自分らしく輝かせて参ります。

平成25年9月 吉日

追伸：2013年7月より、乳がんの全摘術後の乳房再建に使う人工乳房への保険適用が承認されました。（インプラントを用いる乳房再建術）

刈谷久美子





ぎんなんからのお知らせ

・ぎんなんでは以下の活動を行っております。

毎週木曜日 公開ミニ患者会 病院1階カフェテリア・サンマルク横 pm1:00-4:30

・今後の予定は以下の通りです。

11月9日(土)勉強会 pm1:00~5:00

1) 1:00~3:00 患者おしゃべり会

2) 3:00~5:00 「膵がんの最新治療」/天野良亮先生

11月24日(日)

第9回がん患者大集会「がん患者が望む最期の迎え方」 pm1:00~4:30

於・臨床研究情報センター(ポートアイランド・神戸)

12月8日(日)

第7回「がんになる前にがんを知る」～がんに関する最近のトピックス～

pm1:30~4:30

於・大阪市立大学医学部学舎4階 大講義室

第1部 「子宮がんの予防を考えよう」角 俊幸教授

「がんは遺伝するの??」 高島勉先生

第2部トーク&ケーナ 俳優の 田中健さん

～癒しのケーナと歌声をあなたに～

田中健さんのトークもあります。

入場無料 先着200名迄

詳細はぎんなんHPをご覧ください。

皆様のご参加をお待ちしています!



毎週木曜日、13時から16時半まで市大病院1階奥の化学療法センター前がんコーナーにて「サバイバーによるミニ患者会」を開催しています。心配なこと・誰かに聞いてほしいこと・教えてほしいこと・知りたいこと・思ったこと・困ったことなど、どんな些細なことでもいいですので、気軽に気持ちをお伝えください。どなたでも、時間内ならいつでも参加自由です。

大阪市立大学医学部附属病院がん患者サポートの会「ぎんなん」ホームページ <http://cscginnan.com/>

お問い合わせ先: メールアドレス gankangin@cscginnan.com



編集者 北野愛子 発行人 辻恵美子